令和元年度第３回逗子市総合計画審議会　会議概要

日　時：令和元年９月 12 日（木）18：00～20：00
場　所：逗子市役所５階第３会議室
出席者：
【委　員】出石会長、磯部副会長、倉田委員、佐藤委員、藤井委員、渡邊委員、
三原委員、田宮委員、田倉委員、山口委員、池谷委員、塚越委員、中嶌委員
【市側出席者】（次第２）桐ケ谷市長、柏村副市長、村松教育長、福井経営企画部長、
田戸総務部長、芳垣市民協働部長、須藤福祉部長、石井環境都市部長、
草柳消防長、山田教育部長
（次第３）島貫経営企画部参事（防災安全課長）、三ツ森総務部次長（総務課長）、廣末国保健康課長、須田高齢介護課長、須田まちづくり景観課長、鈴木都市整備課長、新倉下水道課長、青木下水道課担当課長、杉山教育部参事（保育課長）
欠席者：２人（佐野委員、志村委員）
事務局：福井経営企画部長、福本経営企画部次長、仁科主幹、四宮専任主査、
金子主任（記録）、橋本主事
傍聴者：０人

配付資料：
次第
資料１　逗子市総合計画進行管理総括表
資料２　令和元年度総合計画審議会スケジュール
資料４ver2　総合計画実施計画改定案
参考１　実施計画の目標の補足について

議事概要：
１　開会

２　次年度の総合計画の推進に向けて【意見交換】
○　平成 30 年度分の逗子市総合計画進行管理に係る総合計画審議会の答申に対し、市長から市の見解が提示された。
○　市長の見解を踏まえ、計画の推進全般について、次の質疑応答があった。
・進行管理の報告書がどのように活かされているのか。
⇒進行管理表について、各所管課で閲覧できる状態となっている。
・事業や計画のスケジュール管理、時間管理がなされていないと思うがどうか。

⇒議会との調整であったり、全分野での対応であったりすることから、行政は民間のようなスケジュールどおりの対応はなかなか難しい。

⇒課題のあるものについては、市長ヒアリング、または事業査定等でその進行管理したり、課題の整理を行ったりして事業を進めている。

・計画・企画はすばらしいのに、それが現場で生きているのか。進行管理を数値だけでみても、内容の評価は少し甘いのでは。中身が良くなっているかどうかが目標を達成することだということを市の職員に指導してほしい。

⇒現場第一主義で行っている。確かに行政の仕事は、計画との乖離がある。それをどのようにチェックするのかは非常に大事。目標を数値化して評価していきたいと考えている。

・評価をする立場や視点で評価結果が変わってくると思う。現在の評価の仕方は、行政的で数値でとらえているが、市民目線で考えると、実際に参加している人等の生の声が聞けたら違う評価ができるのではないか。評価は一つではなくてもよく、市民目線が評価したらどうか。整合性はなくても良いのではないか。柔軟性を持った評価をしたらどうか。

⇒民間では、事業を行っていると決算という形で、数字で評価が出てくるが、行政はそれだけでは判断できない。一方で、様々なところで評価をいただくものは良いと思うが、まとまりがつかなくなる。その塩梅加減が難しい。行政だけですべてを自己評価していると硬直化していくので、いろいろな意見をいただきながら軌道修正していくことが大事だと思う。

・現在の計画はローリングしないことが大前提ということだが、明らかに計画が実情と異なるものについては削除していくことが必要なのではないか。

⇒ぜひそのようなご意見をいただき、検討していきたい。

・財政の安定化について、どのような考えか。

⇒簡単に企業誘致ができるとは思っていないが、逗子市は、女性が活躍できるまちだということをキーワードにしていきたい。子育てのために逗子市に移り住んでいただいている方が多くいるが、子育て後期に入った方が都内等へ働きに行くのは大変なため、市内で働けたら良いのではないかと考えている。創業支援セミナーを開催すると他自治体に比べ参加者が多い。参加者の９割は女性である。

・逗子がこのようなまちになるんだというビジョンを発信してもらえると取捨選択がしやすくなるのではないか。

・待機児童が出ているのは、保育士の絶対数が足りていないためであれば、保育士の確保等、将来のために予算を投入する考えは必要ではないか。

・事業の運用の仕方として、連携する事業を１つにしていく、例えば福祉と防犯・防災の事業を組み合わせると、もっといい内容になる方法が生まれてくるのでは

ないか。計画の変更という形ではなく、横のつながりを持って、内容を合体させて計画を進めるべきである。

3　総合計画実施計画の改定について【審議】

○　資料２「令和元年度総合計画審議会スケジュール」に沿って、スケジュールの変更について事務局から説明した。

○　資料４ver2「総合計画実施計画改定案」について、土地利用の方針について、所定の手続きを行い、再度改定案へ盛り込んでいくこと。下水道施設の再整備に向け、必要な調査・研究を行うことを追加したことを説明した。

○　市長から今回の改定に関する思いや考えについて話した。

○　次の質疑応答があった。

＜元気な高齢者を増やそうプロジェクトについて＞

・ちょっと違和感を感じたのは、行政が元気な高齢者をつくるわけではなくて、市民が元気な高齢者になることを応援することで、一緒に目指すものではないか。それを行政や企業がどう協力にするのかという話だと思う。元気な高齢者をつくるという言い方は、非常に繊細なところがあるので、避けたほうがいい。

・元気な高齢者を増やそうというと、ほかの町からも来てもらうみたいに聞こえるかもしれない。でも、本当にそれに成功したら、非常にメディア的にも報道されるし、70 代の人たちが働ける場とかできたり、あるいは市の行政にその人たちが半ボランティア的に関わったりと、何かそういうおもしろいプロジェクトだったらいいと思った。

・名称を変えたほうがいいのではないか。例えば、元気な高齢者になろうプロジェクトとか。誤解を招くような表現、違う意味にとられることと、行政がそれを支援する形が大事である。

・元気高齢者を増やそうということは、健康寿命を延ばすことと名前を変えたらどうか。

・プロジェクトと書いてあるが、これはメーンの方針であるのに、プロジェクトというのは、小さい、何か限定された特別な取り組みのことではないか。基本的な方針であれば、プロジェクトよりも、もうちょっと普遍性をうたって、もっと長期的な視点でもっと大きい取り組みというイメージの言葉のほうがいいのではないか。

・プロジェクトというと、必ずスケジュールがあって、終わりがあるものがプロジェクトである。また、メンバーは複数の部門またがるため、プロジェクトには必ず責任者がいるものだ。そういった意味で、プロジェクトという言葉はなじまないのではないか。

⇒趣旨としては、富士山の頂上に「元気な高齢者」という目標を置き、みんなが

ハッピーになれるというイメージを持って、そこにたどり着くために、さまざまな施策、所管、関係機関が、その目標をみんなで達成していこうという取り組みである。「増やそう」という言葉に、違和感があったり、誤解を招いたりするということであるが、やろうとしていることは、正に市民に元気な高齢者になっていただきたいという趣旨であり、それが達成できればよいと考える。

⇒市長がこの施策の柱として、そういう呼びかけを行っている中では、「元気な高齢者を増やそうプロジェクト」という名称であるが、みんなで元気になっていこうという趣旨だということをしっかり周知していきたい。

・フレイルチェックを受けた際に、いろんなボランティアが関わっていたが、現在の謝礼金額では交通費で足が出る。非常にかわいそうだと思うので、増額をお願いしたい。

・フレイルチェックの今年度の目標が 300 人ということだが、市全体が老齢化している中で、非常に少ないというイメージがある。相当増やしたらどうか。

⇒フレイルチェックは、１回に受けられる人数には限界があり、１回あたり 20 名前後ぐらいである。初めての方ばかりのため、記入の仕方や測り方等は全てボランティアの運営で行っている。月１回のペースで、年間を通して 300 人ぐらいという計算になる。参加者は少しでも増やしたいが、ボランティアの方や運営する場所には限度がある。今後は、協力できる団体等にも働きかけて、回数や参加者数の増加を少しずつでも図っていきたい。

・国保健康課の元気高齢者を増やそうプロジェクトと、高齢介護課の元気高齢者を増やそうプロジェクトの兼ね合いというか関連というか、同じ目的を違った表現にしているのか、これは所管が違うからそうなのか、ここのそれぞれの、特にタイトルを同じような冠にしたことによって、片方は見方としては、医療費の抑制の話をしていて、片方は要介護者を抑制するという話をしている。これは、事業としてこの目標と現状は裏表というか、縦割りでやることなのかなというのが気になった。

⇒それぞれの所管で行っている高齢者事業と、それよりも若い世代含めた全世代への健康増進計画の事業を横串で刺して、１つのプロジェクトを達成するための構成する事業として、特出しをさせてリーディング事業に位置づけたところ。今後、この福祉部以外の所管との連携する事業等が出てきた場合には、それがこのプロジェクトに組み込まれていくというようなイメージである。

・介護予防・日常生活支援総合事業（元気高齢者を増やそうプロジェクト）は、目的を読むとよくわからない。目的のところは、「多様な主体による多様なサービスが提供され、利用者がサービスを選択することができるようにする」ということが目的というのは、この事業と合った目的なのかもよくわからない。この２つの事業の兼ね合いというか、せっかくここで整理するのであれば、それぞれがどんな役割を

負って、何を目指すのかということをこの事業概要のところも含めて、きちんと整理したほうがいいのではなかろうかなと感じた。

⇒日常生活総合支援事業というのは、元々あった介護保険事業の延伸でやっている事業だが、今後はそれぞれの自治体に合ったやり方で、元気な高齢者については、プロのヘルパーがいる介護事業所ではなく、地域の住民、福祉団体等 NPO など、様々な人たちのマンパワーを利用して、社会参加をしていただき、介護事業、もしくはその一部を支えていこうというものである。

＜空き家解消事業について＞

・いわゆる相続の問題は、行政書士や不動産鑑定士など幾つか複数の方にアプローチしないといけないことになるので、その辺を何でもセンターみたいな感じで一本化してやられたほうがよいのでは。

⇒逗子の空き家バンクは、空き家をストックしておいて、その空き家をいろんな形で使っていただくというだけではなく、空き家を活用したいとか、住みたいとかいう利用希望者も空き家バンクに登録していただいて、その中でマッチングをしていく仕組みをつくった。空き家バンクの立ち上げに関しては、行政書士会鎌倉支部、宅建協会鎌倉支部と業務協定を結んで、一緒に進めている。

・その空き家の所有者に対するアプローチというのは、どんな形でしているのか。

⇒第一段として固定資産税の納税通知に案内を同封した。所有者にアプローチという部分では、空き家関係で何らかの通報があったときに、その所有者に連絡をとるが、その際に空き家バンクを紹介をする。また、現在、地域の方の協力を得て、空き家の実態調査をしていただいているところもある。

・人口減少を食いとめたいというなら、他県からの移住等を呼ぶために空き家を格安で提供するとか、抜本的な何か考えないと、なかなかうまくいかない。

・空き家に他市在住の職員に移り住んでいただいく。そうすると、まず職員が市内に住むことになり、さらには若手の人口も増えるので、人口が増え、税収も増える。

・関東学院大学でも空き家のリノベーションを年１棟ずつやっているので、ともかくいろんな手を打ってもらえればよい。

⇒斬新な取り組みを組み合わせていく。例えば、片づけも協力してくれるチームが、一応手を挙げている。そこにはリノベーションも自分たちでやろうというチームもいるので、そういう情報をどう上手に所有者に流し込んでいけるかというのが見えてくると、動き出すと思う。今はまだそこの手前のところで留まっている状態だが、いろんな方法を考えてやっていきたい。

＜その他＞

・リーディング事業については、総計審しか議論する場がないということなので、市民の

意見を聴取する機会があってもいいのかなということを感じた。それが難しければ、パブリック・コメントのほうで、できるだけ工夫して、市民のご意見を伺えるようにしていただきたい。

⇒現総合計画策定時に行ったような早い段階でのワークショップというのは、想定をしていない。パブリック・コメントのあたりで、市民の方にきちんとご意見いただけるような工夫をしていきたい。

○　次回の会議については、スケジュール変更に伴い、１０月４日（金）に予定していた会議を中止とし、改めて日程の調整を行うこととした。第４回会議については、12 月中旬以降を予定しており、後日、事務局から調整することとした。

○　次回の会議では、土地利用方針の改定部分について審議いただき、全体として答申をいただく予定。

４　閉会